

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.45 平成18年1月1日発行

新年明けましておめでとうございます！

県民の皆さん、団員の皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は、5月の定期総会で「救急奉仕団」から発展的に「安全奉仕団」へ移行し、世界赤十字デーキャンペーンを皮切りに、多くの活動を進めてきました。どの活動においても多くの団員の皆さんの協力を得ることができ、特に対外的な面で評価が大きい「イベント救護ボランティア」は、団員の貴重な体験とやりがいを感じた活動でした。

今年度も残すところ後3ヶ月となりました。今年も、昨年得た多くの経験や教訓を生かし、社員・県民の利益のために、団員一丸となって奉仕していきたいと思いますので、皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。(現在68人の団員で活動しています)

また、今年もより充実した内容で「**Safe Volu**」を発行していきたいと思います。皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。(機関紙・広報部会)

「西部地区研修会」を開催します～

救急奉仕団当時から、西部地区では奉仕団員と他の3講習の指導員との交流と研修を目的に、研修会を開催しています。「赤十字」の横のつながりを大切にするとともに、お互いのスキルアップも可能となります。今年度は、ILCORの2005勧告を基に発表された「AHAガイドライン2005」を中心に研修していく予定で準備を進めています。西部地区の安全奉仕団員と3講習の指導員の皆さんには、後日連絡をいたします。また、ホームページ上にも掲示いたしますので、中・東部地区の安全奉仕団員の方の参加も可能です。

日程と会場は、2月4日(土)の午後から、浜松駅付近で開催の予定で現在調整をしています。(訓練・研修部会)

赤十字家庭看護法介助員フォローアップ講習が終了！

～運営に団も一役、多くの受講者の顔に「満足」の二文字をみた～

「介助員としての知識・技術の向上をはかり互いの親睦を深め、赤十字の理解者を増やし、安全奉仕団の紹介をし、ボランティアとしての活動の場を提供する」ことを目的として、支部主催・本団協力で標記講習が12月20日(火)に、日赤県支部で開催されました。本団からは3人の団員がタスクとして協力し、受付、タイムキーパー、資機材の片づけ等を担当いたしました。受講者は50人の介助員有資格者で、とても熱心に受講していました。最後に本団の説明会を開催し、当日数名の方が入団届を提出しました。(訓練・研修部会)

今月の眼(見た)・耳(聴いた)！「赤十字マークに新バージョン登場！！」

紛争活動や災害の被災地で救急活動の目印として国際的に承認されてきた[国際赤十字の標章]「赤十字」「赤い三日月」(赤新月)に加えて宗教的に中立な「赤いひし形」(レッド・クリスタル)を救急活動の第3のマークとすることを、先月ジュネーブで開かれていた国際赤十字締結会議で承認された。救急活動のマークとしては多くの国が赤十字を採用。イスラム諸国は十字がキリスト教の十字軍を連想させるなどの宗教的な理由から赤新月を用いてきた。しかし赤新月もまたイスラムの象徴であり、宗教を背景とした紛争ではかえって攻撃対象になることもあった。今回のマークの採用により、どちらのマークの使用も拒んでいるイスラエルの救急活動組織「マゲン・ダビド・アドム」(ダビデの赤い盾)が国際赤十字活動への全面参加の道が開かれることになった。(機関紙・広報部会)